

6 評価について

クラブ活動は、適切な指導のもとに展開される児童の自発的、自治的な活動であり、その評価も自発的、自治的活動が育つように十分配慮したい。

また、特別活動の評価は「次の計画や活動に生かすための評価」であり「評価のための評価」であってはならない。

* まずは次のようなクラブ活動が、学校でできているかチェックしてみましょう。

- 児童の興味や関心を生かしたクラブが設置できている。
- 集団活動が成立している。
- 各クラブの活動計画がある。
- 担当者が、教師の得意なことに依存していない。
- クラブの伝統を育てる意味で、数年間クラブの種類を変えていない。
- 児童が活動の計画を作っている。
- 異学年児童で小グループを作っている。
- クラブ発表会が行われている。
- 3月末までに子どもの所属が決定している。
- 年間20単位時間前後実施している。

チェックできた項目が多くなるように子どもたち主体のクラブ活動を展開していきましょう。



(1) クラブ活動の評価の観点と趣旨

評価の観点については、小学校学習指導要領等に示す特別活動の目標を踏まえ、各学校において別紙5を参考に定める。その際、例えば、「集団の一員としての思考・判断・実践」にかかわる観点について、学校として重点化した内容を踏まえ、育てようとする資質や能力などに即し、より具体的に定めることも考えられる。

(小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)22文科初第1号 平成22年5月11日より)



新学習指導要領になって、特別活動は、各学校ごとに評価の観点を作成するようになったのね。

でも、学習指導要領には国の基準としての目標と内容が示されているね。だから文科省では一層簡素で効率的な学習評価を行うために参考にすべき評価の観点とその趣旨を示してくれているんだよ。



国立教育政策研究所の資料では、クラブ活動の評価規準に盛り込むべき事項を示してくれているよ。

特別活動においては各学校に明確なねらいをもって指導を展開してもらうため、各学校において評価の観点を設定することにしてあります。各学校では、以下の資料も参考にしながら評価規準を設定し、観点別学習状況の評価を適切に行うことが必要です。

特別活動の評価の観点等及びその趣旨については、「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（平成 22 年 5 月 11 日 文部科学省）別紙 5 「各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨」において次のように示されています。

観 点	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
特 別 活 動	学級や学校の集団や自己の生活に関心をもち、望ましい人間関係を築きながら積極的に集団活動や自己の生活の充実と向上に取り組もうとする。	集団の一員としての役割を自覚し、望ましい人間関係を築きながら、集団活動や自己の生活の充実と向上について考え、判断し、自己を生かして実践している。	集団生活の意義、よりよい生活を築くために集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方、自己の健全な生活の在り方などについて理解している。

(2) 評価規準作成について

国立教育政策研究所から出された資料「評価規準の作成のための参考資料（小学校）」（平成 22 年 11 月）を示します。

【クラブ活動の評価規準に盛り込むべき事項】

観 点	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
ク ラ ブ 活 動	共通の興味・関心を追求するために、積極的にクラブの活動に取り組もうとしている。	共通の興味・関心を追求するために、話し合い、クラブの一員として、よりよいクラブ作りについて考え、判断し、自己を生かして実践している。	共通の興味・関心を追求するクラブ活動の意義やそのための活動内容、方法などについて理解している。

(3) 評価の視点

次の 3 つの活動ができているかどうか、クラブ活動の評価の基本です。今のクラブ活動が適切かどうか見直していきましょう。

- 実践活動・・・活動のねらいや特質をふまえて、結果よりも活動過程を大切にした

評価をする。

- 自主的活動・・・児童の自発的，自治的な集団の実践活動が行われているか評価する。
- 集団活動・・・集団が育っているか，また個人が集団の中で育っているか評価する。

(4) 評価の対象

評価というと児童の活動ばかりに目がいくことが多いようですが，児童の活動と教師の指導は一体です。教師の指導計画や方法，指導の在り方についても正しく評価し，児童の活動に生かしていくことが大切です。また，個人の変容だけに目を向けることなく，集団の変容にもしっかり目を向けていきましょう。

- 指導計画・・・児童の実態に即した指導計画を作成するため，児童の思いや願いを生かし，より自発的，自治的な活動が展開されるようなクラブ活動年間指導計画であったかを評価する。
- 指導方法・・・より自主的，実践的に活動できるように，ねらいを達成するうえで，クラブ活動における実際の指導方法が適切であったかを評価する。
- 集団の変容・・・集団生活を楽しく豊かなものにし，学校の一員としての所属感や連帯感を深めるために，互いに支え合い認め合いながら，意欲的にクラブ活動ができていたか，互いに展開される集団活動の望ましさの程度や集団の変容について評価する。
- 個人の変容・・・自主性や社会性を養い，個性の伸張を図るために，意欲的にクラブ活動ができていたか，活動への関心・意欲・態度，思考・判断等について，個々の子どもの状況や変容について評価する。（この点が指導要録の記載にかかわってくる。）

(5) 評価の方法

評価の方法には次のようなものがありますが，継続的，多面的，総合的に評価することが大切です。

- 観察法
- 児童の記録や作文，作品（集団として，個人として）
- 質問紙法（自己評価や相互評価）
- 教師相互の話合い



(6) 一人一人を生かすクラブ活動の集団の評価

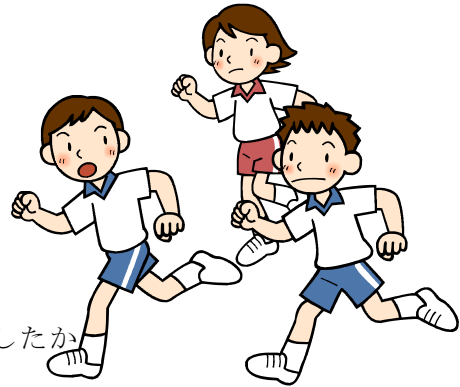
児童一人一人を生かす望ましい集団になっているかどうか也越来越重要になってきます。次のような活動が行えているかどうかを考え，次の活動に生かしていくようにしたいものです。

- 集団に共通の目標があり、さらに共通の目標のもとに個人のめあてがもっている。
- 参加意欲を高めるために、児童全員に役割分担が行われ、責任が果たせている。
- 一人一人の思いや願いが生かされ、児童の創意工夫が活動に生かされている。
- 児童相互がよい面を見つけ、認め合い伸ばし合う集団になっている。
- 児童が成就感、充実感をもっている。
- 児童の興味、関心を大切にし、自発的、自治的活動ができるように適切な指導ができている。

(7) 児童個人のクラブ活動への評価

次のような項目で、できれば毎回、児童自身に自己評価や相互評価させるのがいいでしょう。ただ、あくまでも簡単に◎・○・△等でさせたいものです。(資料参照)

- めあてを達成するために活動できましたか。
- 楽しく活動できましたか。
- 工夫して活動できましたか。
- 進んで活動できましたか。
- みんなと力を合わせて活動できましたか。
- 話合いで自分の考えが発表できましたか。
- 友達のよいところを見つけることができましたか。
- 準備や片づけはきちんとできましたか。



(8) 評価のポイント

活動の足跡を記録する

クラブ活動は学級会と同じように、回を重ねることによって育ちが見えてくるものです。「第○回クラブ活動」と、回数を数えながら記録していくとよいでしょう。児童全員を輪番制にして活動の充実感や感想を、簡単な言葉で書かせてみるのも効果的です。また、次の活動に生かしたいことは何かなど、活動計画を意識させることも大切です。

めあてが達成できたか評価する

児童は「こんな活動をしたい」という願いをもってクラブに所属します。そこでのクラブ活動のめあては、クラブという新しい集団の中で作られていくものです。「こ

んなクラブ活動にしたい」という集団としてのめあてを立てるとともに、その中で、児童一人一人が個々のめあてを立て、それが達成できたかどうか評価したいものです。

技術的な向上ばかりに目をむけた評価にしない

児童が活動を振り返るとき、「ヒットが打てた」、「もっとうまくなりたい」というように技術的なことばかりにとられることもあります。このようなときには、共通のめあてや役割、友達とのかかわり等について、指導者から評価の観点を助言することが大切です。



友達の活動に目をむける

クラブ活動は、学級や学年を越え、同好の児童をもって組織された異年齢の集団活動です。毎日の学校生活の基盤である学級内の組織とは違い、意識して望ましい人間関係を育てる必要があります。そこで、活動を振り返るときにも、他学級、他学年の児童の活動に目をむける機会を設け、互いのよさに気づかせたいものです。

活動記録カードの工夫

評価の方法のひとつとして、活動記録カードが広く活用されています。これは一人一人の活動の様子を知るには大変有効です。ただ、評価項目が多すぎたり記述に時間がかかりすぎると児童の負担が大きく、長続きしないことになってしまいます。そこで、簡単に自由記述ができるスペースを設けるとともに、項目ごとに記号で自己評価するとよいでしょう。

活動を振り返って友達のいいところを発表する

活動の終わりに、その日の活動を振り返って一言述べたり、友達の活躍を発表したりするプログラムを設ける方法もあります。一人一人の思いを共有できる場になるとともに、友達のよさや個性を再発見できる場にもなるでしょう。

活動の終末における教師の評価を大切にする



学級会における教師の終末の指導と同様に、クラブ活動においても活動の終末における教師の評価は重要な指導です。評価の観点としては、次のようなものがあります。

- 役割を果たした児童へのねぎらい
- 活動の成果（前回よりよくなったところ）
- 集団としての高まり（協力、集団行動、士気、役割分担など）

- 計画やめあての振り返り
- 次回の活動への見通しと課題 等

(9) 指導要録に記載する事項等について

指導要録に記載する事項については、「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（平成 22 年 5 月 11 日文部科学省）「【別紙 1】 小学校及び特別支援学校小学部の指導要録に記載する事項等」4 特別活動の記録において次のように示されています。

小学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）小学部における特別活動の記録については、**各学校が自ら定めた特別活動全体に係る評価の観点を記入した上で**、各活動・学校行事ごとに、評価の観点に照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入する。

評価の観点については、小学校学習指導要領等に示す特別活動の目標を踏まえ、各学校において別紙 5 を参考に定める。その際、例えば、「集団の一員としての思考・判断・実践」にかかわる観点について、学校として重点化した内容を踏まえ、育てようとする資質や能力などに即し、より具体的に定めることも考えられる。

クラブ活動ふり返りカード

() 年 () 組 名前 ()

1 クラブ名 ()

2 クラブでの係・役割 ・部長 ・副部長 ・記録 ・部員

3 クラブでしたことや作品などについて書きましょう。今までの活動をふり返って、自分を反省してみましょう。 (よい◎ ふつう○ もう少し△)

- 1 クラブは楽しかったですか。 ()
- 2 友だちといっしょに計画が立てられましたか。 ()
- 3 計画したことを実行できましたか。 ()
- 4 友だちと力を合わせて活動できましたか。 ()

4 活動の反省や感想を書きましょう。

5 今のクラブをもっとよくするとしたら、どんな点をどのようにしたらよいか書きましょう。

このようなカードを子どもたちに配布し、自己評価をさせながら、クラブ担当教師に参考所見を書いてもらうのもいいですね。



所見	評 定	
----	--------	--



クラブ活動 個人記録カード

() 年 () 組

名前 ()

* 今日の活動をふりかえってみましょう。

☆ 楽しく活動できましたか。

☆ 進んで活動できましたか。

☆ クラブ活動のめあてを考えて活動できましたか。

☆ 友達と協力して仲良く活動できましたか。

☆ 準備はきちんとできましたか。

☆ 後始末はきちんとできましたか。

--

◎ よくできた ○ できた △ あまりできなかった

* 自分でがんばったところ、友達のよいところはどこだったかな。

平成 2 3 年度クラブ希望表

() 年 () 組 名前 ()

★ この調査は来年度活動するクラブを決めるものです。

希望するクラブ 2 つに○をつけましょう。

希望人数，設置クラブのつごうで第 2 希望になることもあります。

★ 下のクラブでも希望者が少ないクラブは設置しません。

(クラブ数は，10 までになります。)

番号	ク ラ ブ 名	希望するクラブ 2 つに○)	
		第 1 希望	第 2 希望
1	アート		
2	かがくこうさく 科学工作		
3	ゲーム		
4	しゅげい おしほな 手芸・押し花		
5	パソコン		
6	スポーツ (主に運動場)		
7	たつきゅう 卓球		
8	バドミントン		
9	フラッグ		
10	一輪車		

そのほかに作ってみたいクラブ活動

--	--

『創意工夫 生かして クラブの活性化』

『先生も いっしょに楽しむ クラブ活動』

『年間の 見通しもって 計画づくり』

『共通の 課題に挑む クラブ活動』

『指導者の 得意苦手は 関係なし』

『話し合いと 発表会で クラブの活性化』

『活動の 時間確保は 教師の力』

『活用しよう 地域の人材 教育施設』



【参考文献】

文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 東洋館出版社 2008

徳島県小学校教育研究会特別活動部会『特別活動ハンドブック』 2003